



1. 戦車をとめた制限荷重
2. 住民の協力を得るために
3. レジャーの根源

1. このところ、米軍の戦車輸送阻止が問題になっているが、この輸送阻止の理由は表面的には戦車の重量が橋梁の制限荷重超過のため国内法に抵触するとか、幅が大きすぎるとかということである。しかし、いままで日本の道路橋で制限荷重を厳密に遵守されていたかどうかとなると、はなはだ疑問である。筆者は橋梁を専門とするものではないので、どのようにして橋梁の制限荷重が決められるか詳細にはわからないが、技術的にのみ考えると、今回の戦車輸送阻止は、土木技術者として非常に割切れないものが残る。もちろん、政治、あるいはイデオロギーなどでみれば、また別な考え方もできるであろうが……。

土木技術者としては、ここでイデオロギーなどを抜きにして、このさい明確に純技術的に橋梁制限荷重についての意見を出すべきでなかろうか。

ともあれ一日も早くこの問題の解決を望むとともに、橋の制限荷重をはじめとして、もっと権威のある制限値を定めて、しかもそれが守られるようにすべきである。 [J]

2. 空港、鉄道、高速道路といった交通機関の施設の新設には、沿線住民の騒音・振動等に対する公害意識の高まりにより拒絶反応が強く、これらのビッグプロジェクトは軒なみ難航している。従前は、かかる施設ができることにより地域開発が促進され、地域の発展が約束されるということで、多少の犠牲はやむを得ないと辛抱され、反対どころから、設置を歓迎されたものであるが、最近では公害意識が予想外の速さで全国的に広がり、どこにいても歓迎どころか反対また反対である。

この現象は、住民意識の高まりと、同時に既設施設の公害防止に対する配慮の不備、発生している公害の跡始末の悪さによることを謙虚に反省する必要がある。

今後、騒音・振動等の発生源である車両、機器の研究が積み重ねられ発生量の軽減は進められるであろうが、われわれ土木技術者としても騒音・振動の少ない構造物とか構造形式、伝播防止に最適なる付帯施設の開発なり研究を積極的に進める必要があるのではなかろうか。 [C]

3. 一億総レジャー時代だという。レジャーとは一体何か。レジャーという概念はラテン民族において発達したものであり、その根源としては、ラテン語の Otium 「何もしないこと」・「生きること」と、ギリシャ語の schole 「文化・芸術などの精神活動」であるといわれているように、本来自己充足のための手段としてとらえられている。一方、日本においてレジャーと同義語的に使われているレクリエーションは、アングロサクソン民族において発達したものであり、労働が社会活動の中心となった産業社会において、労働の再生産機能の一つとしてとらえられている。このように、レジャーとレクリエーションの概念は同一ではないが、自由時間の利用という点では同じといえる。

日本においては、歴史的社会的条件から自由時間に対する考え方がまだ確立されておらず、マスコミ等によってレジャー(?) が叫ばれると何かをしななければならないという一種の焦燥感にとらわれ、その行動様態も他人志向的傾向がみられる。さらに、一方では近代産業社会の発展により、自由時間も経済のメカニズムの中に組み入れられ、所得の消費形態としてとらえられようとしている。このような情勢において、今後ますます増加する自由時間の有効な活用方法について、レジャーの根源にさかのぼって考えることは、有意義なことであろうし、いまがその時期かも知れない。 [S]